

## へっぼこ登山隊活動記録

### ※スノーシューハイク※

3月19日花曇り気温4度の暖かな陽気に誘われ、かねてから気になっていた里山を散策してみました。

国道242号線上湧別市街から西に見える緩やかな稜線、地図を見ても名前がなく標高437.3メートルと三角点だけ記載されている山が今回の目的地。

さっそく山に向かい湧別川を渡って道道上社名淵上湧別線を「熊の沢道路」の標識から折れ山間部を進むと酪農家の庭先で道が行き止まり、邪魔にならないよう少し手前に駐車スペースを確保し準備を整えて山の全景が見える場所まで移動、地図とコンパスで確認すると頂上北側から「熊ノ沢川」が道路沿いを流れているはずが雪で見えず、当然登山道など気の利いた物はなく木々がまばらで歩きやすそうなルートを探します。

山裾に目を凝らすと廃屋の裏手から針葉樹林を突き抜け一直線に頂上を目指せそうなのですが等高線をたどっていくと頂上付近の間隔がやけに狭く、メタボ隊員はあっさり最短ルートをあきらめ少々遠回りながら間隔が広がっている軟弱者ルートを選んで歩き始めます。

緩やかな丘陵を15分ほど進んで広葉樹林が始まるあたりが標高200メートル、周りの景色を眺める余裕もあり背後に上湧別市街、林越しにはオホーツク海が見え隠れし足取りも軽く高度を稼ぎますが見せかけの余裕もここまで、250メートルを過ぎるあたりから勾配がきつくなり息も絶え絶え、右往左往しながら350メートルを越えたところで約1時間、さらに目の前に立ちはだかる急勾配に折れそうになる気持ちを叱咤しながらスローモーションのような歩みを進めると見晴らしの良い尾根に出ます。

足元には湧別原野が広がり左手奥にはサロマ湖を遠望しながら、張り出した雪庇を踏み抜かないよう注意して進むと黄色い標識が三角点で437メートルの頂上に到着、さらに奥へ進んでみますが足元の雪庇が不安定で林に囲まれ見通しも悪いのでここから引き返し350メートルまで戻って、直登ルートを逆に降りてみると軟弱な選択が正しかった思える急斜面、スノーシューがスキーのように滑るのを楽しんでいる間に山裾の廃屋まで運んでくれました。

出発した時よりかなり気温が上昇し、晴れ間から強い日差しに照らされて雪はベトベトザクザクと疲れた足には重い鎖のようですが、この時期ならではの景色が堪能できた楽しい里山散策でした。



湧別町 熊ノ沢川三角点		標高437m
登り	1:45	3:15
山頂休憩	30	
下り	1:00	

